

「わくわく算数教室」 2日目

8月22日（木）、「わくわく算数教室」2日目です。今日も暑い中、子どもたちもSPさんも汗だくでやってきました。でも、なんだかみんな楽しそう。「わくわく算数教室」の一番のねらいは、「子どもたちが楽しいと思えること」です。そして、“わくわく算数教室が楽しい”から“算数を勉強するのが楽しい”と思えるように、SPさんたちは試行錯誤しながら子どもたちに声をかけてくれています。



わく算では毎年、後半の数日はSPさんが司会をします。学生の中に、集団（しかも全学年の子ども）を指導する場面はそうそうありません。せっかくの機会ですから、ぜひ集団に対して指導を経験してもらえたらと思います。また、中村コーディネーター（兼 授業アドバイザー）の司会（指導）もとても勉強になります。立ち位置・体の使い方・トーン・抑揚・スピード・テンポ・声の大きさ・話す順序・言葉選び。細かい技術がたくさん散りばめられています。見たから、知ったから上手くいくものでもありませんが、いいなと思ったら実際にトライしてみてください。失敗も成功も、必ずみなさんの力になります。こうしたことに果敢にチャレンジする人は、どんどん成長していきます。わく算で、片葩小で、東浦で、チャレンジをしてきたシニアSP（卒業生）は、現場に出たら即戦力になっています。



わく算には、学校には、いろいろな子どもたちがいます。性格、得意・不得意、好きなこと・嫌いなこと、家庭環境、さまざまです。実際に子どもたちに関わっているみなさんは、それをよく感じ取っているのではないのでしょうか。机上では学べない、現場に来たみなさんだから学べることです。

今日来ていた2年生の子は、時計の単元で困っていました。時計は60進法。生活の中で時計以外に出会うことのない進法だからか、つまづく子が多い印象です。どうしても大人（指導者）は、「分かるように“教えてあげよう”」と思ってしまうのですが、概念は人から教えられて分かるものではないと思います。では、どうしたらいいのか……。今日のSPさんは、その子が考えられる時間をたくさん作ってくれていました。一問一問、その子が考えられるように言葉を選びながら問題を丁寧に進めていき、考えている時間はじっくり待つ。今、この1回のわく算でその子が時計の問題が完璧にできるようにはならないかもしれませんが、この繰り返しを丁寧にすることで、ある時、その子の中で60進法の世界が“落ちる”瞬間が来るのだと思います。“子どもが考える時間”をたくさん作ってくれたSPさん、素晴らしい指導だと思いました。



他にも、こんな場面がありました。とっても元気な高学年の子どもたち。友達同士で集まると本当に楽しそうです。おしゃべりも増えます。そんな時、ついつい注意してしまったり、叱ったりしてしまいがちになりますが、ここに来てくれるSPさんは、注意することも叱ることもせず、子どもたちを算数の勉強に向かわせてくれます。子どもたちと同じテンションで話しかけて輪に入り、なんとか学習に向かえるように工夫を凝らしてくれます。こんな関わり方が学生の内にできるのです。センスあふれるSPさんがたくさんいます。

